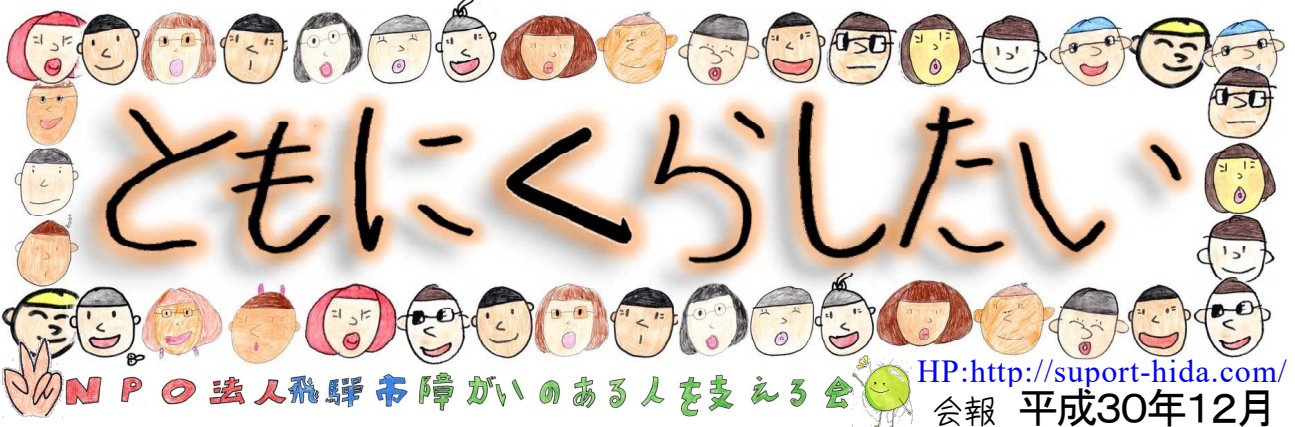


障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして



ともにくらしたい

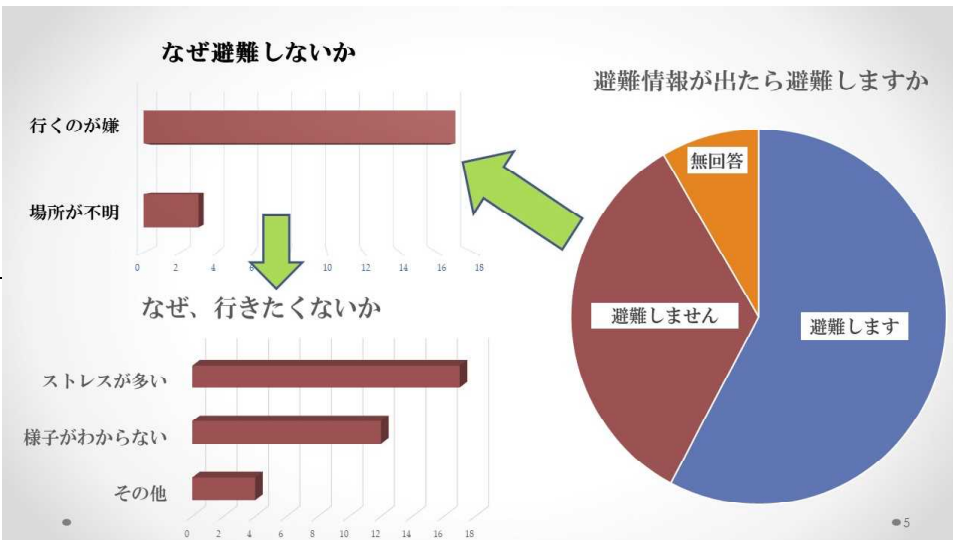
災害が起こったときどうするの？「一緒に考えませんか

◇飛騨市で災害が起きたら……

これまで飛騨市では、全国各地で災害が起きて

また、今年度の通常総会でも飛騨市の坂田危機管理課長と障がい福祉課藤井参事をお招きし、障がい者のための防災対策について

もどちらかというところの火事的なところがありました。しかし、近年、全国各地で自然災害が多数発生しており、飛騨市においても七月豪雨や台風二十四号による被害が相次いでおきました。本当に人ごとではなく自分の身に起きることとして考えなくてはならないと思います。今年度は、ピースでも神原峠、数河峠が通行止めとなり、利用者さんの安全確保やスタッフとの連絡に追われました。改めて障がいのある人が少しでも安全で安心して過ごせる避難のあり方を模索していく必要性を痛感しています。そこで、飛騨市障がいのある人を支える会では、まず第一歩として、災害があったときどう対応するのかを障がいがある人とその家族の方へアンケート調査しました。今回の会報は、その結果をお知らせしたいと思います。



の方が与えてしまうことを考え、「や」洪水の時は、自宅が良い」と考えてしまいます。「や」洪水の時は、自宅

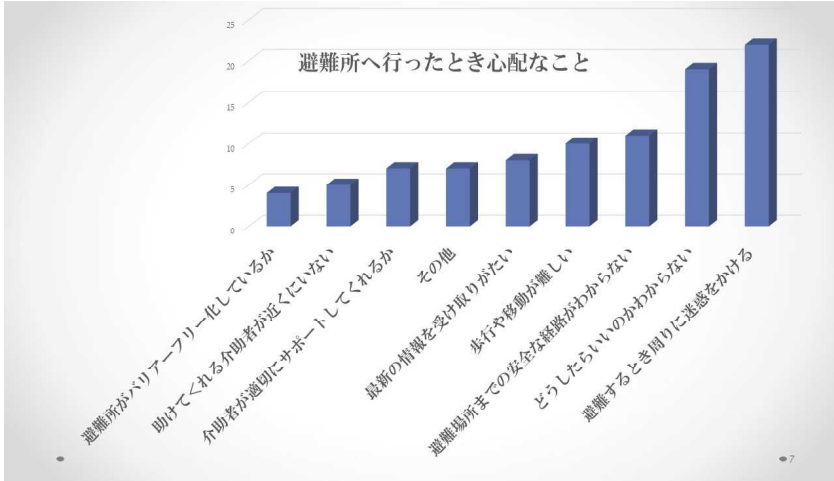
い者のための防災対策についてお話しいただき、研修を進めました。今後、飛騨市とも連携しながら、障がいのある人が少しでも安心して避難し、安全に過ごせるよう取り組んでいきたいと考えています。

◇アンケートの結果から考える避難のあり方

避難の情報が出たら身に危険が迫っているわけですから、誰でも避難すると思います。上のアンケート結果をくまなく読んでください。回答くださった71名のうち避難する人は58%にすぎません。避難しないまたは迷っている(無回答)がなんと42%もあるのです。アンケートの意見欄では、「いざ避難しても皆が自由をされているなか、我が子のせいでますます不自由(騒音、わがまま、手助け、介助など)を周りが良い」と考えてしまいます。「や」洪水の時は、自宅

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

への不安、慣れない場所へのストレスなども多
くあります。障害のある人は、なじみのない場

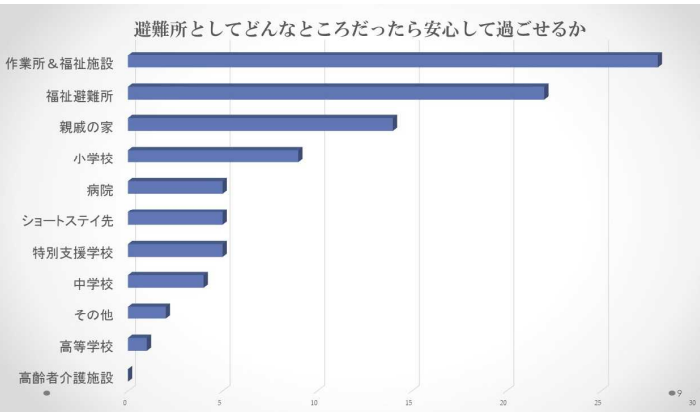


にて垂直避難をしたいと思っています。地震で家
が壊れた時は、私の実家に避難しようと思っ
ています。正直、避難先の大きな体育館の中で落
ち着いて過ごす自信もなく大声を出したり走
り回るといふことで他の方に迷惑をかけるので
はと思うと親としてはとても不安です。せめて
一般の健常者の方やお年寄りや遠く部屋や福

社施設の
中でなら
安心して
過ごすこ
とが出来
るのでは
ないかと
思っています。
「など
の意見が
多く寄せ
られまし
た。それ
は、上の結
果にもよ
く現れて
います。
さらに避
難所での
過ごし方

ます。

います。なれたところで仲間と共に過ごせ
るのが一番です。これも市に働きかけ
ながらできる限り安心して過ごせる避難
所の設定に取り組んでいきたいと考えてい

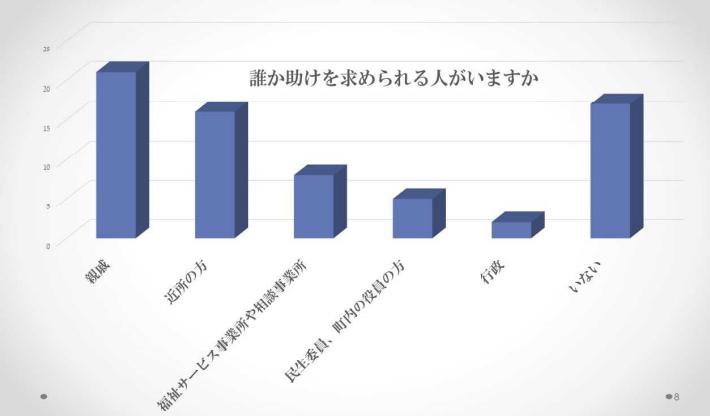


て過ごせるか
聞いたところ、
上のよう
な結果になり
ました。当然
といえば当然
ですが本人が
通っている作
業所や福祉施
設(グラフで
は、どの項目
も「本人が通
っている」と
いう言葉が省
かれていま
す)になって

たらお願い

「本人と家族だけで避難所へ行くことが難
しい場合、誰か助けを求められる人がいま
すか(本人の障がい特性を理解して避難所
まで車に乗せて行ってくれたり、同行して
くれたりする人)」を聞いた結果が左のよう
でした。やはり親戚や近所の方など身近な
方々のお力をお借りすることが重要だと考
えます。ただ「いない」と回答された方が多
く見えたことが気になりました。飛騨市でも
全市を挙げて区長さんや民生児童委員さん
とともに一軒一軒訪問し災害に備えた個別
支援プログラムの
作成を進め
て見えます。

は、尋ねてみ
てください。
また、出来る
だけ福祉施
設のスタッ
フでも市の
福祉課でも
近所の方で
も話題にし
ていただけ
たらお願い



支援プログラムの
作成を進め
て見えます。

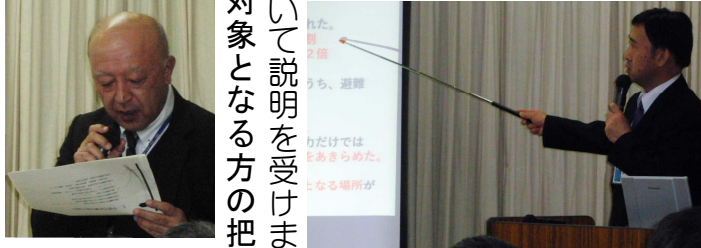
◆避難所へ向かうときの介助者について
「本人と家族だけで避難所へ行くことが難
しい場合、誰か助けを求められる人がいま
すか(本人の障がい特性を理解して避難所
まで車に乗せて行ってくれたり、同行して
くれたりする人)」を聞いた結果が左のよう
でした。やはり親戚や近所の方など身近な
方々のお力をお借りすることが重要だと考
えます。ただ「いない」と回答された方が多
く見えたことが気になりました。飛騨市でも
全市を挙げて区長さんや民生児童委員さん
とともに一軒一軒訪問し災害に備えた個別
支援プログラムの
作成を進め
て見えます。

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

ます。意見の中に「近隣の方と日頃、行き来くしくおつきあい交流を大切に支援をお願いしたいと思います。」とありました。日頃から近隣と関係を作っておけば、いざというとき助かるというの、その通りだと思います。

◇市から避難についての研修をしていただいて

坂田課長からは、障がいのある人を含めた災害時要支援者の避難について東日本大震災を例に説明していただきました。飛騨市でも今まさに災害対応のシステムを構築中で障がい者支援についても作りつつある今だから寄せられた意見を反映できるとのこと。藤井参事からは、今後の必要な取り組みについて説明を受けました。今後「福祉避難所の対象となる方の把握、福祉避難所の指定、福祉避難所の周知徹底、福祉避難所の施設設備、物資・器材、支援人材、移送手段の確保、福祉避難所の運営体制の事前準備、福祉避難所の設置・運営訓練等の実施」について取り組んでいただけます。支える会でも意見を集約し、ぜひ飛騨市の避難計画に反映していただきたいと意を強くしました。



毎週水曜日、スタッフが、メンバーさんの喜ぶ姿を楽しみに給食を作っています。



本日のメニューはシチュー、唐揚げ大根おろしぞえ、マカロニサラダ、さつまいも煮、果物ヨーグルトあえ、ご飯。

マカロニサラダはメンバーのIさんが腕ふるって作って下さいました！塩加減もバッチリ！みんなに「おいしい！おいしい！」と言われ嬉しそうです。



Iさんは、毎週、給食のお手伝いをして下さいます。回を重ねるごとに慣れてきて、自信を持って取り組んでいます。



ピースのメンバーくんは、今日お弁当デビュー。今まで、他のメンバーが食べていた様子を見て興味を持ちました。「玉子と生野菜は入れないで」と、とりあえずアレルギー級の苦手食材はがしてもらい脱戦！



ピースでメンバーさんと関わる中で一番大事にしていることは「将来、本人と家族が希望している生活」を意識して関わらせて頂くことです。障がいを持っている方なら少なからず誰でも将来に不安を感じています。不安ばかりが大きくならないよう、今やらなければならぬこと、つけておくと良い力を、本人や家族と一緒に考えて、提示し、取り組んでいく。

今日はピースに通う二組の親子と将来の生活について話し合いを行いました。前半は、今、ピースで行っている「自立活動」の取り組み紹介やこれから行う自立活動について説明させて頂きました。



後半は、それぞれの家族と個別に話し合いをしました。一人一人、持っている力も違い、得意不得意も違う。経済状況もいろいろ。本人、家族の思いを受け取り、今取り組んでいくことを一緒に考え具体的な方法を提示します。



本人、家族とピースが同じ思いで、少しずつ前に進んでいます。うまくいかなかったら、また一緒に考え一緒に歩んで行きたい！スタッフはいつもそんな思いで日々過ごしています。

ホームページのプログラムから

字が細かくてごめんなさい。詳しくは、ぜひホームページを見てください。

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

いつもご理解と協力に感謝しています。今年度もよろしく申し上げます。

【第5期決算報告(平成29年10月～平成30年9月)】

経常収益計	19,791,801 円
経常費用計	18,545,219 円
当期経常増減額	1,246,582 円
法人市民税	72,000 円
前期繰越正味財産額	4,919,003 円
次期繰越正味財産額	6,093,585 円

収益内訳

会費収入	472,000 円
寄付金	709,829 円
ボランティア受入評価益	717,600 円
公共補助金等	540,000 円
受託事業収益	16,487,561 円
販売等収益	605,930 円
その他収益	258,881 円
経常収益計	19,791,801 円

費用内訳

人件費	13,548,318 円
ボランティア受入評価費用	717,600 円
その他経費	3,512,095 円
管理費	767,206 円
経常費用計	18,545,219 円

NPO 法人飛騨市障がいのある人を支える会の第5期(平成29年10月～平成30年9月)の事業も無事に終わりましたので、決算のご報告を致します。第5期事業は福祉サービスマーク運動を通じて障がい理解促進、ボランティア活動、福祉教育の推進を行い、地域の中で障がいのある人もない人もともに安心して暮らしが営むことができるよう啓発活動にも力を入れてきました。このような啓発事業の取り組みには、ボランティアとしてご協力いただいた皆様、会員としてご支援いただいた皆様のお力なしでは成し得ないことです。心よりお礼を申し上げます。第6期の事業にもご理解と支援をよろしく申し上げます。

ピースはたものがたり

大きな大根になりました。八月末にまいりました。大きく育ちました。耕耘機による耕起、種まき、収穫そして大根洗いとそれぞれの作業を利用者の方々に任せていただきました。今回は、「ピース」前の畑を使いまして。利用者の方々は、月曜日から金曜日まで決まった日程で過ごしていただけるので、天候次第の畑作業を組み込んでいくには少し無理があります。今年は、農作業を知っていただくということを目標にし、作業をしていただいています。「ありがとうファーム」さんからお借りしている広い畑で農作業ができるよう、利用者の方々に体力をつけていただきたいと思います。



大根洗い



大根の収穫

山本 裕司

【おつせ】

ピースへ見学にみえませんか。ピースってどんなところ？ピースで何しているの？なんて思ってみえる方、自分の目で見るのが一番！ぜひピースへ連絡ください。お待ちしております。(連絡先)飛騨市障がいのある人を支える会

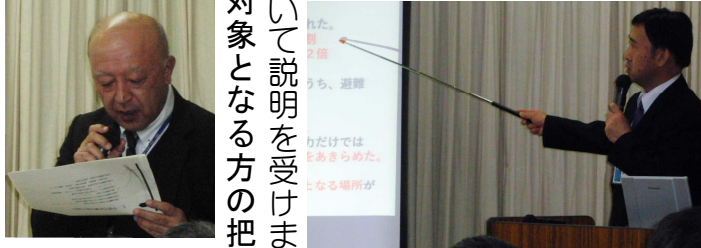
飛騨市神岡町山田2358番地 TEL/FAX 0578-82-1559

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

ます。意見の中に「近隣の方と日頃、行き来くしくおつきあい交流を大切に支援をお願いしたいと思います。」とありました。日頃から近隣と関係を作っておけば、いざというとき助かるというのは、その通りだと思います。

◇市から避難についての研修をしていただいて

坂田課長からは、障がいのある人を含めた災害時要支援者の避難について東日本大震災を例に説明していただきました。飛騨市でも今まさに災害対応のシステムを構築中で障がい者支援についても作りつつある今だから寄せられた意見を反映できるとのこと。藤井参事からは、今後の必要な取り組みについて説明を受けました。今後「福祉避難所の対象となる方の把握、福祉避難所の指定、福祉避難所の周知徹底、福祉避難所の施設設備、物資・器材、支援人材、移送手段の確保、福祉避難所の運営体制の事前準備、福祉避難所の設置・運営訓練等の実施」について取り組んでいただけます。支える会でも意見を集約し、ぜひ飛騨市の避難計画に反映していただきたいと意を強くしました。



毎週水曜日、スタッフが、メンバーさんの喜ぶ姿を楽しみに給食を作っています。



本日のメニューはシチュー、唐揚げ大根おろしぞえ、マカロニサラダ、さつまいも煮、果物ヨーグルトあえ、ご飯。

マカロニサラダはメンバーのIさんが腕ふるって作って下さいました！塩加減もバッチリ！みんなに「おいしい！おいしい！」と言われ嬉しそうです。



Iさんは、毎週、給食のお手伝いをして下さいます。回を重ねるごとに慣れてきて、自信を持って取り組んでいます。



ピースのメンバーくんは、今日がお弁当デビュー。今まで、他のメンバーが食べていた様子を見て興味を持ち出しました。「玉子と生野菜は入れないで」と、とりあえずアレルギー級の苦手食材はがしてもらい脱戦！



ピースでメンバーさんと関わる中で一番大事にしていることは「将来、本人と家族が希望している生活を意識して関わらせて頂くことです。障がいを持っている方なら少なからず誰でも将来に不安を感じています。不安ばかりが大きくならないよう、今やらなければならぬこと、つけておくと良い力を、本人や家族と一緒に考えて、提示し、取り組んでいく。」

今日はピースに通う二組の親子と将来の生活について話し合いを行いました。前半は、今、ピースで行っている「自立活動」の取り組み紹介やこれから行う自立活動について説明させて頂きました。



後半は、それぞれの家族と個別に話し合いをしました。一人一人、持っている力も違い、得意不得意も違う。経済状況もいろいろ。本人、家族の思いを受け取り、今取り組んでいくことを一緒に考え具体的な方法を提示します。



本人、家族とピースが同じ思いで、少しずつ前に進んでいます。うまくいかなかったら、また一緒に考え一緒に歩んで行きたい！スタッフはいつもそんな思いで日々過ごしています。

ホームページのプログラムから

字が細かくてごめんなさい。詳しくは、ぜひホームページを見てください。